

二〇二五年九月二日

海の日のつるべ落としや露天風呂
村祭り土俵の脇に力石
苔むせる羅漢百態竹の春
自づから秋思となりぬ羅漢道
爽やかや女性コーラス洩る校舎

二〇二五年九月二〇日

小鳥来る宮居の樹下に力石
秋日落つ千畳敷の忘れ潮
露けしや肩を寄せ合ふ無縁仏

二〇二五年九月九日

福耳の寿老神訪ひ小鳥来る
秋の雲ヒマラヤ杉の高空に
秋雨や古木に隣る皇子墓

二〇二五年九月八日

銀杏の落ちて車の屋根叩く
天高し奇岩奇峰の仏めく
地下道を住处としたる昼の虫

なつき

ひかり

はく子

豆狸

満天

満天

なつき

宏虎

ぼんこ

有香

明日香

よし女

なつき

さつき

二〇二五年九月七日

萩の叢八重に二十重に枝垂れけり
虫の音に励まされつつ畑を打つ
プールの子髪をニタ分けして上がる
新涼や水上バスの水脈ま白
吟行の我らに四方のつくつくし
芋の葉の八つ裂きとなる野分後
牧の空まんじともゑに赤とんぼ

二〇二五年九月六日

神苑の力石より秋の声
行き合ひて傘傾ける萩の雨

二〇二五年九月五日

枝あまた折れし霊木台風禍
雨戸開け安堵の朝や台風過
うそ寒し唇赤き幽霊図
掴みたる橋の欄干露しとど

宏虎

三刀

豆狸

菜々

かず

泰山

菜々

はく子

有香

豆狸

泰山

菜々

さつき

毎日句会みのる選・二〇二五年九月一四日